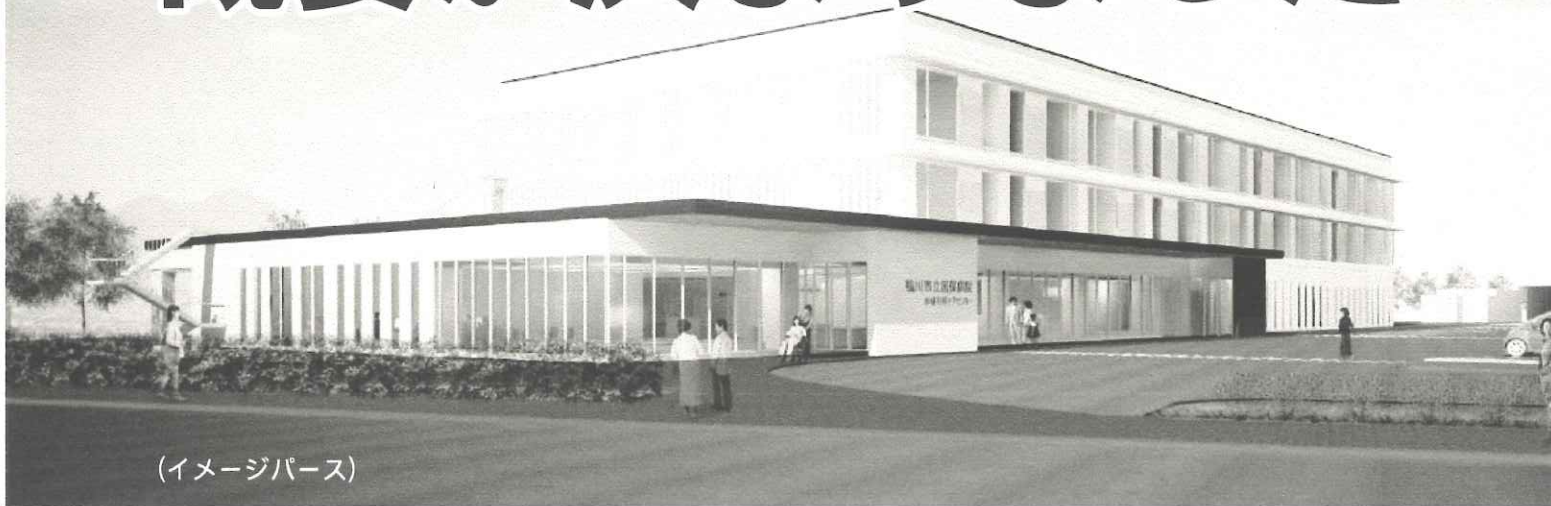


# 新しい国保病院の概要が決まりました



(イメージパース)

新国保病院の基本設計業務が完了し、概要が決まりました。新病院のコンセプトは、「まちのコミュニティケア・ホスピタル」です。これは、災害発生時や地域包括ケアシステムの拠点として、そして、まちの活性化を支え地域の拠りどころとなる病院を目指して整備を進めていくものです。

建設場所は、現在の国保病院の敷地内南側を予定しています。建築工事は約20億円で、平成32年度のオープンを目指します。

## 現国保病院の敷地内に新築 オープンは平成32年度

市では、地域医療の拠点となる新国保病院を、平成32年度にオープンする計画を進めています。新病院の基本設計コンセプトは、「まちのコミュニティケア・ホスピタル」です。

新病院は、現在の病院敷地内の南側に鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積約5000平方メートルの規模で建築。病床は70床、外来診療科は12科（内科、小児科、整形外科、スポーツ整形外科、泌尿器科、循環器内科、神経内科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、リハビリテーション科）を維持し

### 全床個室で プライバシーに配慮

1階には、外来診察室や検査室、手術室、リハビリ室のほか、訪問診療や訪問介護の拠点となる地域包括ケアセンターを設けます。

2・3階は病室で、社会的ニーズに対応するため、全床個室を基本とし、男女のプライバシーに配慮します。それぞれにナースステーションを設け、効率的なケアや、医療看護介護スタ

ます。現病院は解体して駐車場を整備します。

### 効率化を進め安定経営へ

建築工事は約20億円で、合併特例債や公営企業債、社会資本整備交付金（耐震工事）など有利な財源を活用します。

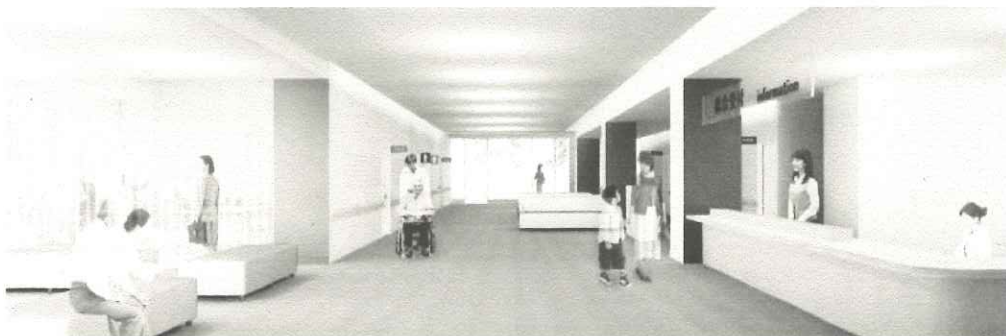
そのほか、2・3階を同一平面とすることなどによる建築費の圧縮や、空調や照明などの省エネルギー化を図りランニングコストの削減を図ります。

これらのことから経営の効率化を進め、安定的な経営を目指します。



全床個室に





今後のスケジュールは、4月から実施設計業務を行い、来春に着工、平成32年度のオープンを目指し、併せて医師や看護師など医療スタッフの確保にも努めます。

## 地域の拠りどころとなる病院へ

現在の国保病院は、建築から40年余りが経過し、施設の老朽化が進み耐震基準を満たしていません。さらには、高齢化が進む中で、病気の患者だけでなく、高齢者、交通弱者、生活困窮者など、介護や支援を必要とする市民へのサービスや、



明るいロビーと待合室

情報交換のできる交流の場が求められています。

このことにより、次の3つの役割を果たし、地域の拠りどころとなる「まちのコミュニティケア・ホスピタル」を目指します。

### 1 災害時の拠点に

本市の市街地や主要な医療機関は、天津小湊、鴨川、江見地区の沿岸部に立地しています。東日本大震災での教訓を生かし、海岸から約9キロ、標高約48メートルの陸部に位置する国保病院を、災害発生時に全市民の医療や長期避難を支える拠点とします。

### 2 地域包括ケアセンターを設置

病院内には、居宅介護支援や訪問介護、地域医療連携などを強化するため、地域包括ケアセンターを設置します。地域包括ケアとは、病気や介護が必要となったときでも、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続け

られるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援を一体的に提供するものです。これまで設置していた鴨川地区、天津小湊地区に加え、4月からは長狭地区、江見地区にも地域包括ケアセンターを設け、相談窓口として機能の充実強化を図ります。

そして、データヘルス改革を通じた健康レベルの維持向上など、これからの公的医療の拠点として、医療費の抑制など社会保障制度の適正化に取り組みます。

また、病院周辺は、総合交流ターミナルや長狭学園、商店などが集まる、いわゆる地域の拠点と言えるエリアです。そうした環境を生かし、長狭地域全体の活性化にもつなげていきます。

### 3 暮らしを見守る

24時間灯りがともる病院を見守ります。地方への人の流れを支え、仕事をつくり、安心して住むことのできる地方創生推進の拠点施設を目指します。

また、病院周辺は、総合交流ターミナルや長狭学園、商店などが集まる、いわゆる地域の拠点と言えるエリアです。そうした環境を生かし、長狭地域全体の活性化にもつなげていきます。



現病院の南側に新築し駐車場を増やします





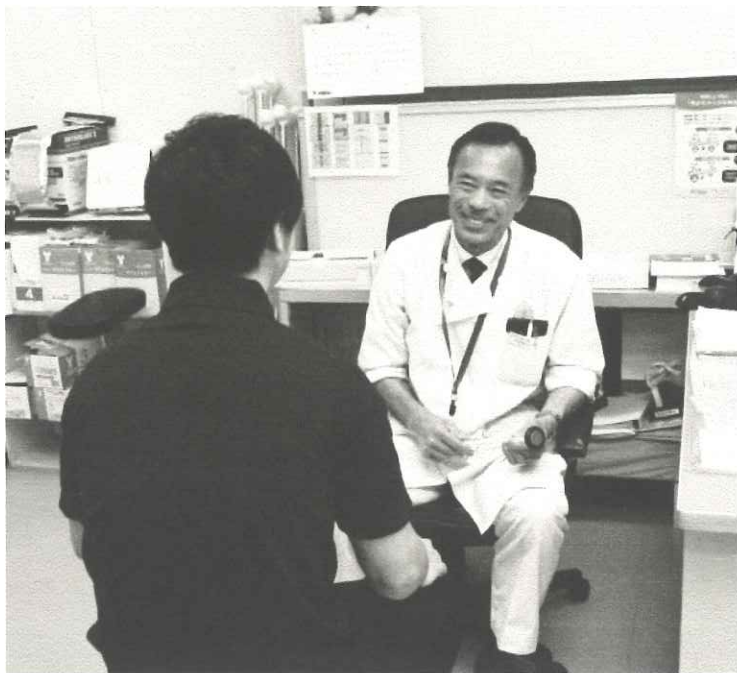
# 国・県の計画に沿って

## 病床の過不足を解消

亀田市長が掲げる重点政策の一つ「生活充実」では、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指しています。中でも「国保病院」の充実については、市民生活に密着した優先度の高い事業として位置付けています。

長期的な需要を見据えて  
県「地域医療構想」を推進

第7次千葉県保健医療計画では、地域の実情に応じた効率的な医療提供体制を整備する「地域医療構想」を推進しています。  
この地域医療構想では、



皆さんの安心を支えます

公立病院に、災害医療や地域包括ケアシステムの構築に向け中心的役割を果たすことを求めています。

また、新病院で計画している急性期病床から不足している回復期病床への転換や、慢性期の医療ニーズに対応する医療・介護サービスの確保など、長期的な需要を見据えた医療提供体制の充実についても、国や県の構想に沿ったものとなっています。

急速な少子高齢化や医療技術の進歩、市民意識の変化など、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。本市においても、超高齢化社会へと進む中、限られた医療・介護資源を効果的・効率的に活用し、市民皆さんが安心して質の高い医療・介護サービスを受けられるよう、医療ニーズに応じた病院づくりを目指していきます。

そして、近隣自治体や県と連携を強め、地域全体の安定した医療体制の構築に努めていきます。

■問い合わせ 市立国保病院(☎(7097)1221)

## 保健医療参与に 竹内公一氏

## 国保病院経営統括支援員には 大橋恵子氏

市では、新しく設置した非常勤特別職の「保健医療参与」に竹内公一氏(52歳・東京都)を、「国保病院経営統括支援員」に大橋恵子氏(63歳・南房総市)を委嘱しました。任期は今年4月から1年間です。

竹内氏は、平成3年に自治医科大学を卒業。博士(医学)、専門はプライマリケア、同認定医、同指導医。小笠原村母島の診療所やニューヨーク・アルバートアインシュタイン医科大学、自治医科大学解剖学講座講師などを経て、現在は、千葉大学医学部附属病院地域医療連携部長。国や県が推進する地域医療構想の要職を務めています。

大橋氏は、医療介護連携コーディネーターとして、医療機関や介護サービス事業間の連絡調整をしています。



大橋恵子氏



竹内公一氏